

小島祐一 油彩個展 存在の残響、筆のはからい

9月12日(土)～10月4日(日)
BIOME (バイオーム)

神戸市東灘区御影2丁目6番11号 BIOME 御影

Alcove 1-L

email: artroom@biomekobe.com

自画像や家族の肖像、京都の風景など、日々の暮らしの中にあるものに意味を見出し、油彩や素描で繰り返し描いてきた小島祐一。現代の油彩画ではあまり見られないような堅牢な筆致と温もりに満ちた色彩による、素材で純粋な作品が注目を集めている。

今展のタイトル「存在の残響、筆のはからい」には、描かれた人や風景が絵の中にどのような余韻を残すのか、また制作の過程で生まれた色や形を画家がどのように受け止め、作品へと昇華している



こじま・ゆういち

1970年東京都生まれ、京都府在住。92年筑波大学芸術専門学群環境デザイン専攻卒業。2002年に嵯峨野に住み始め、2004年から鳴滝にて制作活動を行う。

くのかを見てほしいという思いが込められている。制作中に予期せず現れた色や形、線を積極的に生かしながら制作を続ける小島は、画面からふいに立ち現れる「想定外の驚き」にこそ、自らが描こうとしていたものへの手がかりが潜んでいるという。

建設会社の企画設計室を退職後、自転車で日本縦断スケッチ野宿旅行を敢行し、鷹美研究所(東京)からフィレンツェ国立美術学院、ニューヨークのアート・ステューデント・リーグで学び、現在は京都を拠点に絵画制作に励む小島が、30年以上にわたり描き続けてきたのはなぜだろうか。

「なぜ絵を描くのかと問われるたびに、結局のところ『そこにモチーフがあるから』と答えるしかないように感じます。そこにあるものを、その存在のまま描きたい。そして一筆ごとに、描く対象への感謝を込められるようになりたいと願っています」

日々の暮らしと真摯に向き合いながら生まれた表現を、ぜひ会場で味わっていただきたい。

小島祐一 油彩個展

2026.

9.12[土]—10.4[日]

※木曜・金曜休廊



BIOME

KOBE, JAPAN

〒658-0047

兵庫県神戸市東灘区御影2丁目6番11号

BIOME 御影 Alcove1階

biomekobe.com

email: artroom@biomekobe.com



「存在の残響、筆のはからい」

